

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	7	名称	快適な生活を育むまち			
施策	番号	5	名称	河川環境の整備と維持			
主担当部	まちづくり部		主担当課	道路河川課		部長名	栗間 和也
関係部			関係課				

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	既に改修済みである準用河川の適切な維持管理及び水路改修による浸水被害の解消に努め、市民が安全で安心して暮らせる河川環境を目指す。
---------	--

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、 具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、 施策を取り巻く環境について
	近年の気候変動による集中豪雨や都市化に伴う雨水流出量の増加による浸水被害の解消、及び排水不良による滞泥や悪臭等の改善等、水路の改修要望が非常に多い。	大和川流域に関わる市町村・県・国が一体となって、大和川水系の総合的な治水対策や万葉の清流を復活すべく水質の回復を目指している。
これまでの成果	浸水対策・環境改善ともに、施策の実施に伴い着実に成果を挙げている。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	27年度	28年度		29年度 (総計目標年度)	備考欄	
		実績	目標	実績	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	86.20%	86.30%	86.30%	86.50%		
	施策指標② (成果指標)						
	施策指標③ (成果指標)						
	施策指標④ (成果指標)						
	施策指標⑤ (成果指標)						
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳	決算	当初予算	決算	当初予算		
	歳出 (直接事業費)(a)	96,098	240,640	171,905	174,088		
	歳入 (b)	受益者負担額	0	0	0		0
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	36,330	98,000	63,441		57,800
	(a)-(b)=一般財源	59,768	142,640	108,464	116,288		
	正職員	従事者数 (単位:人)	7.95	5.20	5.20		5.45
		人件費(c)	46,134	29,676	29,676		31,103
トータルコスト (a)+(c)	142,232	270,316	201,581	205,191			

### 5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の 成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の 可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	水路の改修要望の多いなか、浸水対策及び排水不良の改善等着実に整備は進捗しているが、ゲリラ豪雨や都市化に伴い、今後更に河川環境の悪化が見込まれるため、成果向上の可能性は充分ある。				
	市政全般に対する 貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	「快適な生活を育むまち」を実現するにあたり、河川環境の整備は生活環境の向上に不可欠なものであるため、貢献度は非常に高い。				

### 6. 施策の課題

この施策の課題	幹線水路の整備により概ね浸水被害は解消されてきたが、近年の気候変動による局地的な集中豪雨や都市化に伴い雨水流出量が増加している傾向があるため、更なる浸水対策が必要である。
---------	---

### 7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	ゲリラ豪雨や都市化に伴う雨水流出量の増加や既存水路の老朽化により、今後更に河川環境の悪化が見込まれるため、職員を増員し、施策を強化する必要がある。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

### 8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	浸水対策や環境改善を担う公共下水道事業、排水路整備事業は拡大すべき事業である。また、河川機能や活用のため、河川維持補修事業、河川改良事業は継続して実施する必要がある。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。  
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。  
(拡大する、見直しながら続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。  
(優先度が高い順に A、B、C、D)

		この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)		施策評価			戦 略	大 綱
NO.	課名、事務事業名 及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及び H28決算額	貢 献 度	方 向 性	優 先 度 (ソフト任意)		
1	道路河川課	準用河川や雨水貯留施設の機能の維持や安全対策が必要とされているため、堆積土砂の浚渫(しゅんせつ)や除草、または防護柵の設置等適切な維持管理を図る。	1 継続する	b	継続する			
	河川維持補修事業 (ハード)		4,703 (千円)					
2	道路河川課	準用河川の管理堤を計画的に整備する。	1 継続する	b	継続する			
	河川改良事業 (ハード)		3,382 (千円)					
3	道路河川課	公共下水道(雨水)事業認可区域内の浸水被害を解消するため、概ね10年に1回の大雨に対応できる水路改良を行う。	1 継続する	b	継続する			
	公共下水道事業 (ハード)		74,413 (千円)					
4	道路河川課	市内の水路全般において、水路改修や排水管の清掃など維持管理に努めながら排水機能を高め、浸水対策や環境の改善を図る。	1 継続する	b	継続する			
	排水路整備事業 (ハード)		89,407 (千円)					

事務事業評価表(平成28年度実施事業対象)

(作成日:平成29年 5月 26日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( <input type="checkbox"/> ハード <input type="checkbox"/> ) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	河川維持補修事業									
	担当部名	まちづくり部	担当課名	道路河川課	課長名	西村 明					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち							
		施策	5	河川環境の整備と維持							
	総合戦略の位置付け	基本目標									
		基本的方向									
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	河川維持補修事業費									
事業の開始年度	平成	—	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度				
対象											
事業の目的	準用河川の適切な維持管理を図り、市民が安全で安心して暮らせる河川環境を目指す。			事業の内容説明(全体計画)	準用河川や雨水貯留施設の機能の維持や安全対策が必要とされているため、堆積土砂の浚渫(しゅんせつ)や除草、または防護柵の設置等適切な維持管理を図る。						
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業									
		2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)									
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	1 非常に大きい		2 やや大きい		3 克服できる範囲内		4 ほとんど無い			
		説明									
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			27年度	28年度		29年度(総計目標)	30年度	31年度	
	成果指標				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	活動指標①	進捗率(整備件数/要整備件数)			100%	100%	50.6%	100%	100%	100%	
	活動指標②										
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			6,626	9,568	4,703	9,568			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)								
		(a) - (b) = 一般財源			6,626	9,568	4,703	9,568			
		正職員	従事者数(単位:人)			1.25	1.05	1.05	1.10		
人件費(c)			7,254	5,992	5,992	6,278					
トータルコスト(a)+(c)			13,880	15,560	10,695	15,846					
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )										
備考											

CHECK	進捗状況	目標(計画)どおり進んでいるか	2	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない	
			説明	準用河川等の機能の維持及び安全対策共に、概ね予定通り遂行できた。			
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない
			説明				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内優先度
			4 完了する				
			説明	準用河川等の機能の維持及び安全対策のために、今後も継続する必要がある。			

事務事業評価表(平成28年度実施事業対象)

(作成日:平成29年 5月 26日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( <input type="checkbox"/> ハード <input type="checkbox"/> ) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	河川改良事業									
	担当部名	まちづくり部		担当課名	道路河川課		課長名	西村 明			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち							
		施策	5	河川環境の整備と維持							
	総合戦略の位置付け	基本目標									
		基本的方向									
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	河川改良事業費									
事業の開始年度	平成	—	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度				
対象											
事業の目的	河川の管理堤を整備し、市民の安全で、かつ安心して暮らせる河川環境を目指す。			事業の内容説明(全体計画)	準用河川の管理堤を計画的に整備する。						
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業									
		2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)									
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	1 非常に大きい		2 やや大きい		3 克服できる範囲内		4 ほとんど無い			
		説明									
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			27年度	28年度		29年度(総計目標)	30年度	31年度	
	成果指標				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	活動指標①	進捗率(整備件数/要整備件数)			100%	100%	99.8%	100%	100%	100%	
	活動指標②										
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			4,925	3,580	3,382	3,184			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)								
		(a) - (b) = 一般財源			4,925	3,580	3,382	3,184			
		正職員	従事者数(単位:人)			0.65	1.05	1.05	1.10		
人件費(c)			3,772	5,992	5,992	6,278					
トータルコスト(a)+(c)			8,697	9,572	9,374	9,462					
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )										
備考											

CHECK	進捗状況	目標(計画)どおり進んでいるか	1	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない	
			説明	準用河川の管理堤の整備を予定通り遂行できた。			
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない
			説明				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内優先度
			4 完了する				
			説明	準用河川の管理堤を整備し、市民の安全で、かつ安心して暮らせる河川環境を目指す。			

事務事業評価表(平成28年度実施事業対象)

(作成日:平成29年 5月 26日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( <input type="checkbox"/> ハード <input type="checkbox"/> ) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	公共下水道事業									
	担当部名	まちづくり部	担当課名	道路河川課	課長名	西村 明					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち							
		施策	5	河川環境の整備と維持							
	総合戦略の位置付け	基本目標									
		基本的方向									
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	-									
事業の開始年度	昭和	42	年度	事業の終了予定年度	平成	-	年度				
対象											
事業の目的	公共下水道(雨水)事業認可区域内の浸水被害を解消し、市民が安全で安心して暮らせる生活環境を目指す。			事業の内容説明(全体計画)	公共下水道(雨水)事業認可区域内の浸水被害を解消するため、概ね10年に1回の大雨に対応できる水路改良を行う。						
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業									
		2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)									
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明									
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			27年度	28年度		29年度(総計目標)	30年度	31年度	
	成果指標				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	活動指標①	公共下水道(雨水)計画区域整備率			86.2%	86.3%	86.3%	86.4%	86.5%	86.6%	
	活動指標②										
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			50,042	121,000	74,413	57,885			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)			36,330	98,000	63,441	57,800		
		(a) - (b) = 一般財源			13,712	23,000	10,972	85			
		正職員	従事者数(単位:人)			2.05	1.10	1.10	1.25		
人件費(c)			11,896	6,278	6,278	7,134					
トータルコスト(a)+(c)			61,938	127,278	80,691	65,019					
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )										
備考	活動指標①については、平成26年度に認可変更に伴い整備状況を詳細に調査、集計した結果、整備面積が増加しましたので、整備率を修正しました。										



CHECK	進捗状況	目標(計画)どおり進んでいるか	2	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない	
			説明	通行規制について地元との調整に不測の日数を要したため。			
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	効率性評価			1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。						
修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内優先度	
			4 完了する				
		説明	近年の気候変動による集中豪雨や都市化に伴う雨水流出量の増加により、緊急的な災害対応等が見込まれるため、従事者の増員や予算の確保が必要となる。また、事業の目的を早期に達成するため、継続して重点的な整備を行う必要がある。				

事務事業評価表(平成28年度実施事業対象)

(作成日:平成29年 5月 26日)

事業の種類を選択してください。⇒ ( <input type="checkbox"/> ハード <input type="checkbox"/> ) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	排水路整備事業									
	担当部名	まちづくり部		担当課名	道路河川課		課長名	西村 明			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち							
		施策	5	河川環境の整備と維持							
	総合戦略の位置付け	基本目標									
		基本的方向									
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	下排水路管理費									
事業の開始年度	平成	—	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度				
対象											
事業の目的	排水路の整備・改修により、市民が安全で、かつ安心して暮らせる生活環境を目指す。			事業の内容説明(全体計画)	市内の水路全般において、水路改修や排水管の清掃など維持管理に努めながら排水機能を高め、浸水対策や環境の改善を図る。						
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業									
		2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)									
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	1 非常に大きい		2 やや大きい		3 克服できる範囲内		4 ほとんど無い			
		説明									
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			27年度	28年度		29年度(総計目標)	30年度	31年度	
	成果指標				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	活動指標①	進捗率(整備箇所数/要整備箇所数)			62.7%	100%	92.7%	100.0%	100.0%	100.0%	
	活動指標②										
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳				決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)				34,505	106,492	89,407	103,451		
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)								
		(a) - (b) = 一般財源				34,505	106,492	89,407	103,451		
		正職員	従事者数(単位:人)			4.00	2.00	2.00	2.00		
人件費(c)			23,212	11,414	11,414	11,414					
トータルコスト(a)+(c)				57,717	117,906	100,821	114,865				
単位当たりコスト	計算式等 ( )/( )										
備考											

CHECK	進捗状況	目標(計画)どおり進んでいるか	2	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない	
			説明	地元からの要望により、順次計画を行い改善・整備を図っているが、利害関係者との協議により遅れが生じている場合もある。			
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない
			説明				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内優先度
			4 完了する				
			説明	事業の目的達成や緊急対策の対応のため、事業の継続性が必要である。また、早期対策が図られるよう予算の確保及び従事者の増員が必要である。			